



# 個別企業の戦略性を反映する 経営基盤ソリューションSuperStream-NX さらなる進化を具現化する 『グループ経営管理』が登場

エス・エス・ジェイ株式会社 代表取締役社長 大江由紀夫氏に聞く

おおえ・ゆきお：  
1977年日本ユニバックス(現・日本ユニシス)入社後、キヤノンITソリューションズ執行役員総合企画本部長などを経て2010年にエス・エス・ジェイ取締役に就任。11年3月から同社代表取締役社長。

財務会計・人事／給与のパッケージベンダーとして、これまで日本企業のバックオフィス業務の進歩と向上に貢献してきたキヤノンMJ ITグループのキヤノンITソリューションズとエス・エス・ジェイ(SSJ)。新たに投入されるアプリケーション「SuperStream-NXグループ経営管理(以下NXグループ経営管理)」の特徴やメリット、そして同社の今後の展望などについてSSJ新社長の大江由紀夫氏に話を聞いた。

## 戦略的な情報システムの活用が 日本企業の競争力を高める

— 経済環境の移り変わりの速い昨今、日本企業が競争力を高めていくにはどのような取り組みが必要でしょうか。

大江 経営の意思決定を一層速めていくことが必要だと考えます。海外への進出や撤退の判断、事業の選択と集中による経営の効率化など、企業経営とは意思決定の連続です。特に現在のように経済やマーケットの移り変わりが速い状況においては、意思決定の一瞬の遅れが致命的な結果になることもあります。

そしてその意思決定を裏で支えるのが情報システムに他なりません。企業の情報システムは、現在の激しい経済環境の移り変わりに適合するために、常に変化するべきです。変化の足を止めた、あるいは変化のスピードを緩めた情報システムは価値をなくすだけでなく、企業の競争力そのものを大きく低下させることにもなりかねません。

一方、情報システムを真に戦略的に活用できれば、競合企業との差別化はより鮮明になり、優位性は高まっています。その意味で、経営の意思決定のスピードを速める情報システムの導入・活用が企業の競争力を高めるためには必要不可欠であると考えます。

こうした環境において、御社が果たすべき役割とは。

大江 当社はこれまで、財務会計や人事・給与の国産ソフトウェアベンダーとして企業情報と人事情報を適正に管理・活用できるシステムをご提供し、日本企業の経営やバックオフィス業務を支援してきました。中でも、当社が提供する「SuperStream」は企業の財務会計などのバックオフィスを支援する統合業務パッケージとして、現在までに6000社を超える導入実績を誇っています。SuperStreamが多くのお客様から信頼されている理由のひとつは、その利便性の高さにあります。

会計システムを中心に、個々の業務に対応した様々なソフトウェアを取りそろえ、その企業のニーズにあったシステムを低コストで構築することができます。

ひと口に会計システムといっても、一昔前とは異なり、いまや一様である

はずもありません。企業を取り巻く環境が複雑化する中、個々の企業の戦略性を反映した会計システムでなくてはなりません。

また、グループ企業全体の経営管理や国際会計基準(IFRS)への対応、グローバル化対応、他のシステムとのシ

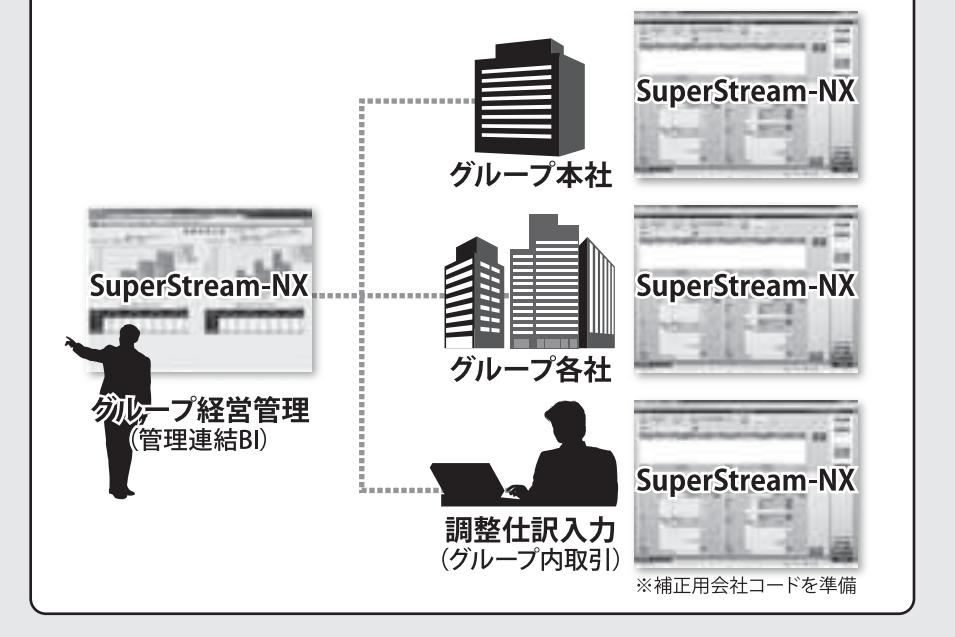
ームレスな連携など情報システム活用形態に求められる要件は、経済環境の移りわりとともに変化するものです。個別企業ニーズや環境の変化にきめ細かく対応した製品をタイムリーに投入することこそが、私たちの使命であると認識しています。

## SuperStream-NXで実現するグループガバナンス ～グループ経営管理でグループ全体の管理連結を～

- 各社で利用するSuperStream-NXで積みあがった数値を管理連結(B/S, P/Lなど)
- グループ間取引(内部消去)の調整仕訳は統合会計側で入力し、精度の高い連結数値を実現

- ダッシュボードによる「見える化」の実現
- 様々な分析軸をドリルダウンにより詳細展開
- 回帰線や移動平均線の表示による分析
- PDF/Excel/CSV/画像データへの出力

### SuperStream-NXで実現するグループ経営管理



## グループ企業全体のデータ確認で 経営層の迅速な意思決定をサポート

— SuperStream-NXの新たなアプリケーションとして今年8月に販売予定の「NXグループ経営管理」とはどのような製品ですか。

大江 「NXグループ経営管理」とは、単体企業だけでなくグループ企業全体のデータの可視化や集計・分析、情報共有を行うアプリケーションです。グループ全体の決算情報や販管比率、総資産利益率(ROA)、株主資本利益率(ROE)などをとらえることで、意思決定のスピードを加速させることができます。さらにグループ全体を事業内容や地域など任意にセグメントとして設定できるので、注力すべき事業やこれまでと異なる戦略性が必要な分野が一目瞭然となります。これまでの会計システムといえば決算を中心、つまり過去のデータに従うものでした。しかしいまや1カ月前の月次決算書類を用いて的確な経営判断ができるとは思えません。

「NXグループ経営管理」ならリアルタイムのデータを様々な切り口で確認できるので、経営層の迅速な意思決定をサポートする材料として最適でしょう。また操作性にもこだわっており、様々な指標を直感的に理解できる画面になっている点も大きなポイントといえます。

— 社長就任の抱負や今後の御社の課題・展望などについて教えてください。

大江 経営の中にマーケティングを置きたいと考えています。ここいうマーケティングとは、個別製品の販売戦略などではなく、ユーザーの声を広く集めてそれを経営戦略の中心に置きたいという意味です。製品開発も営業もコンサルティングもすべてこの考えに基づいて実践していくつもりです。そのためにも全国におよそ100社ある、SuperStreamの販売やサポート

を担うパートナー企業様とともに「顧客密着度」を高めることが必要不可欠です。ユーザーの生の声が製品に反映され、顧客満足度が高まり、結果として業績に結びつくというのがあるべき姿。はじめにあるべきは業績の追求ではなく、ユーザーの満足です。そのことを改めて肝に銘じています。

製品に関連しては、グローバル化というものが重要なキーワードになります。日本企業には今後、これまでの安価な労働力を目的とした海外進出ではなく、国境を意識せずに事業を展開する本当の意味でのグローバル化が迫られるでしょう。そうなれば当然、会計

システムもグローバル化する必要があります。IFRSの適用も日本企業の会計システムのグローバル化にとって追い風となります。実際にSuperStreamの導入企業の25%は海外展開しているという統計もあります。そうした流れの中でシステムが海外展開の足を引っ張るのはもってのほか。日本企業のグローバル化をサポートしていくことはもちろん、SuperStream自体もグローバルなニーズに応えていきたいと思います。

最後に東日本大震災で被災された皆様、そのご家族、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。社員一同、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げるとともに、当社も製品を通じて復興のために尽力したいと思います。

## 単なる「見える化」にとどまらない多彩な機能で 経営層の意思決定を支援する強力な武器に

マーケティング部 部長 山田誠氏



「SuperStream-NXグループ経営管理」はグループ企業全体のデータの可視化や集計・分析、情報共有を行なうこれまでにないアプリケーションです。自由度の高いホワイトボードのようなユーザーインターフェースの追求でデータを自由に扱うことができます。

グループ各社で利用するSuperStreamで積みあがった数値を容易にモニタリングできるよう、ダッシュボードのような見せ方を実現するとともに、製品や地域、相手先など様々なセグメントに応じて、管理会計情報の分析を可能にします。分析軸を掘り下げければ、より詳細な展開が可能になります。

日本/IFRSの両基準に対応した財務諸表分析も瞬時に閲覧でき、レポート機能により、エクセルやPDFファイル、メールでの送付など2次利用も簡単です。単なるデータの「見える化」ではなく、傾向の把握や分析、予測といった経営層の迅速な意思決定

をサポートする機能が搭載されている点が最大の強みといえます。

発売に先駆けてSuperStreamのユーザー企業にモニタリング調査を実施しました。おかげさまで高い評価をいただいており、待ち望まれた機能であったことを実感しています。経理部の方々には、これまで膨大な作業量と時間を必要としていた財務諸表や各種数値の管理が一瞬にして可能になった点が、経営層の方々にはパソコンを立ち上げた瞬間に経営のコックピットとして機能する点が魅力だと思います。SuperStreamを導入されている企業であれば、インストールすれば遅くとも翌日から使えます。「NXグループ経営管理」は、日本企業がグローバルのマーケットを含めて競争力を高めていくための強力な武器になるはずです。